

オプション

# 馬頭琴〈モリンホール〉

B0140

ウランバートル/モンゴル

モンゴル—草原のかおりをたのしむ



М О Р И Н Х У У Р

## 参照資料

『暮らしがわかるアジア読本—モンゴル』  
p.186～p.189、p.205

『草原の遊牧文明』  
p.75、p.95

季刊民族学  
No.85 p.66～p.71  
No.112 p.90～p.91

取扱注意：まつやに  
が手や衣服につくと  
べたべたします。直  
接ふれないでくださ  
い。

※まつやに付

1000年も前からモンゴルに伝わるといわれている楽器です。愛しているウマが殺されてしまい、そのウマをしのんで作られたという物語がよく知られています。日本でも「スーホの白い馬」という話が有名です。四角い胴の二弦琴で、竿の頭にウマが彫刻されています。昔は弦も弓もウマの尻尾で作られていましたが、最近では人工弦が主流です。

(〔参考文献〕 梅棹忠夫 1990『モンゴル研究』中央公論社

吉田忠正著・小長谷有紀監修 2007『体験取材！世界の国ぐに—13 モンゴル』ポプラ社)